

縦と横

△委員会も発足してから三年、迂余曲折のみちをあゆんできたが、可成りの成果をあげてきた。炉物理、炉工学、固体物理及び核物理の四つの分野にまたがる仕事で、夫々の異なつた目標を持つ研究者が集り協同の作業をしてきた経験は今後の研究に大変役立つことと思う。△委員会が単なる研究委員会とは違つて核データの評価・整備という作業をとともなう委員会だけに、その運営について議論がさかんにおこなわれた。運営委員会はもつと指導性を発揮すべきであるとか、いや委員会だから各自その目標の中から興味のあるものの作業をしてゆけばよいのだとかの意見もある。ところであまり指導性を強調してOut Put を求めれば各自の興味以外のものになり、それかといつて各自の興味で仕事をしてゆけばまとまつた仕事をするにはむづかしい。この指導性と興味の問題を上手に調和させることが運営委員会に課せられた任務の一つである。この興味の問題にしてもいろいろな分野の人がいるためその調整はむづかしいものになる。これまでこの調和をはかるのに各研究者のスペクトルを知らんで、人々の興味のあるところを推測してきめ実行に移そうと思つても無言の抵抗にあい、そのため試行錯誤の方法で仕事をしてゆくといつた羽目におちいる事が少なくなかつた。受動的のものに対しては試行錯誤の方法もやむをえまいが、委員は積極的にその興味のあるところを示し、意見を發表することが望まれたこれが委員の義務であると思う。その興味より△委員会の目標にあうようにまとめあげていつてこそその指導性も発揮される。またこの作業を通じて個々の研究の総合化も行なわれる。

最近研究はますます細分化され同じ炉物理でもついと研究の研究者の仕事がわからなくなつてきている。とくに我が国のように研究者の数が少ないうえて縦の組織の強い社会では各組織の中に夫々全分野をカバーしようとするため、一人で数テーマをかゝっているのがまれではない。こういった状態はむづかしい。同じ分野の研究者同士であつても単に年二回の学会の発表では討論をする前の段階の理解で終つてしまう。これらにより研究者は夫々孤立化し不安を感じていることが多いと思う。

このような環境の中で△委員会のはたしている役割ははなはだ大きい。委員会の中にある各サブグループは月に一回程度各研究機関から集り、作業を通じてのお互いの情報交換がおこなわれる事はどれだけ研究者を勇気づけているかわからない。欧米の研究者は近くに同類の仕事をしている人が多くまたひんばんに行なわれる国際会議に出席することによつて委員会の活動がなくてもその研究の位置づけは自然におこなわれるが、我が国のように先進諸国から遠くはなれている国でしかも研究者の数の多くないところでは委員会という組織の中でこそし分野のスペクトルにずれがあつても研究者が集り討論することによつて各自の研究の位置づけがなされ、縦の線に対する横の線をはつきりつけた連帯感が強められ自己の研究、及び技術に自信を持つ事が出来る。これによつて△の活動が国外では一つのプロジェクトとしてみなされるように研究の中からプロジェクトも生れてくる。